

とりくみの経過

祭典開催を決めるまで 「機会にためらえば失うもの多し」

2003年5月、福井で開かれた西日本合唱講習会の時に始めて祭典開催の打診があった。同年7月に神戸で、奈良、高知、福井の代表が集まって「05年以降の祭典開催懇談会」が開かれた。福井では「絶対無理なんだから引き受けないでー」という声が圧倒的だった。

夢を語ろう！

同年10月と2004年6月の2度、全国協議会高橋正志会長が来福して、日本のうたごえ祭典開催検討会議がもたれた。会長からは、06年に福井で開催するという方向で検討して欲しい、また、もっと夢を語り合おう、と提案があった。討議の中で、今後の福井のうたごえを大きくするためにも絶好のチャンス、開催を進めて行きたい、という意見の一方、こんな小さい福井ではとても無理という意見が出された。討議の中で「やらないか、と言われて、仕方なくやるというのなら成功はおぼつかない。協議会（福井の）会長、副会長にやるという決意はあるのか、その決意があれば方向がはっきりしてくる」という意見が出された。

みんなが心を一つにすれば大きな夢もかなう

04年8月22日、福井のうたごえ協議会臨時総会を開き、06年開催を正式に提案した。討議の中で「今まで私たちは、何かをやるたびに、幾つかの財産を残し、一つひとつ積み重ね、飛躍を作ってきた。福井で開いた国鉄のうたごえ祭典では国鉄福井合唱団『きっぷす』を、保母のうたごえ祭典では、敦賀に保母のうたごえ『まつぼっくり』という財産を作った。昨年（03年）の『悪魔の飽食』福井公演では『悪魔の飽食福井合唱団』という財産を作り、杓谷恵子先生という専門家とも出会うことができた。小さな福井でも、みんなが心を一つにすれば大きな夢もかなう」「今まで北陸全体の交流を通して活動を進めてきた経緯も踏まえて、北陸全体の力を結集した祭典の方向を持ちたい」。このような討議を経て、正式に福井開催を決定した。